

様式例11 指定管理者制度活用事業 評価シート

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市大山街道ふるさと館	評価対象年度	令和7年度
事業者名	事業者名 川崎市大山街道ふるさと館共同運営事業体 代表団体 公財)川崎市生涯学習財団 代表者 理事長 石井 宏之 住所 中原区今井南町28-41 構成団体 認定特定非営利活動法人教育活動総合サ ポートセンター	評価者	生涯学習支援担当課長
指定期間	令和6年4月1日～令和11年3月31日	所管課	高津区役所まちづくり推進部生涯学習支援担当

2. 事業実績

利用実績	貸室利用者数 35,119人、貸室利用件数 2,016件、展示室利用者数 13,528人 総来館者数 64,893人(入口カウンター数+屋外利用者数)※昨年度-2,200人
収支実績	【指定管理業務】 ・収入計 33,690千円 (指定管理料 30,559千円、利用料金収入 2,596千円、自動販売機収益 46千円、 その他収入 489千円) ・支出計 32,740千円 (人件費関係 20,029千円、事業関係経費 1,046千円、管理運営経費 9,815千円、 本社経費 1,348千円、租税公課 502千円) ・収支 950千円 【自主事業】 ・収入 255千円、支出 3千円、収支 252千円
サービス向上の取組	・「まちの企画室」と事業連携及び「秋・春ふるさと館まつり」を実施した他、3月8日は「第4回高津陶芸イベント」を全館イベ ントとして開催、11月24日には、ぶらり散歩「二子散歩と老舗料亭やよいでお茶とお菓子を」、また、地域の方にご協力をい ただきまちのマイスター講座を3回開催した。 ・企画展「岡本和泉 大山街道スケッチ紀行 前編」展、「ふれあいクラブ高津 趣味の作品展」、市民ミュージアムとの連携 事業として開催した企画展「むかしのくらしー1950年代の日常ー」展、「岡本和泉 大山街道スケッチ紀行 後編」展、「大 山詣りと人々の暮らし」など郷土の理解を促進する取組として実施すると共に、学芸担当職員による企画展の展示解説を本 格的に実施した。 ・展示室壁面の改修工事を初めて行い、穴あきや変色などが改善され、様々な民族資料を美しく展示できるようになった。 ・ふるさと館ホームページの内容充実及び利便性の向上を図り、新規ユーザー数、セッション数、ページビュー数は大幅に 増加し、過去最高の推移となった。

3. 評価

利用者満足度

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
	事業成果	事業実施による成果の測定を適切に行っているか	10	3 (0.6)	6
		施設の設置目的に沿った適切な運営を行っているか			
	(評価の理由) 「歴史をつなぐ 人をつなぐ 大山街道ふるさと館」を基本理念に、「博物館事業」、「歴史文化探究事業」、「地域活性化事業」、及び「貸館事業」に取り組み、施設の設置目的及び事業計画に沿って各種事業を適切に実施した。また、秋のふるさと館まつりでは、地元の斉藤畳店のご協力をいただき、まちの企画室とふるさと館学芸担当職員が連携して二子・溝口の量に関する歴史や文化を紹介する展示を行い、生活文化としての量について改めて考えていただく機会を提供した。春のふるさと館まつりでは、「多摩川のあゆみ」に関するパネル展示を行い、1000匹のあゆプロジェクトによる「あゆの絵付けワークショップ」を行う意味を伝えることができた。来場者数は、秋のふるさと館まつりは3,333名、春のふるさと館まつりは3,548名で合計6,881名であった。多くの来場者を集め盛況となり、大山街道アクションフォーラム及び大山街道サポーターズクラブと連携して円滑に実施することができた。 7年度は、これまでで初めて年7回の企画展を開催した。入場者総数は13,316名、開室日数は294日で1日平均は45.3名であった。また、展示室入場者数は13,528名と高い水準であった。これは日本遺産に認定されている大山詣りへの人々の根強い関心の高さや、NHKの紀行・教養バラエティ番組で大山や大山街道が取り上げられたことも要因である。こうした背景やタイミングを捉え、企画展「岡本和泉 大山街道スケッチ紀行」や「大山詣りと人々の暮らし」を開催し多くの入場者数と高い満足度を獲得した。 また、川崎市市民ミュージアムと共催で実施した企画展「むかしのくらしー1950年代の日常ー」でも例年以上の3,510名の入場者を記録したが、これは子どもから高齢者まで幅広い世代に興味・関心を持ってもらえる企画であったことに加え、企画イベント「あやかしさがし」との相乗効果があった。 以上の点から、当館は地域における歴史・文化の発信拠点としての役割を担い、地域活性化に貢献していると認められる。 貸室については、年間の貸室利用件数が前年度の2,055件から2,016件へと39件減※(1.9%減)となったが、貸室利用収入は、前年の2,568,260円から2,596,100円へと27,840円増(1.1%増)となった。理由としては、イベントホールの利用率が向上したことが挙げられるが、全体的な利用率はやや減少傾向にある。 ※第1・2会議室合併利用を1件としてカウント。 【参考】 ・貸館利用収入比較(単位:円)				
		平均(過去5年間)			
		2,652,442			

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
R2	20,600	-	162,400	213,880	212,250	205,720	236,480	221,080	184,900	128,640	139,320	201,840	1,827,110	2,652,442
R3	244,540	239,620	245,760	235,090	188,500	243,420	280,140	265,080	233,140	192,200	187,850	229,060	2,784,400	
R4	254,660	261,140	254,750	250,560	236,230	229,840	292,700	287,060	223,700	287,880	296,090	254,000	3,128,610	
R5	212,010	271,330	247,490	244,470	212,690	208,450	278,520	256,650	211,370	203,290	262,430	248,130	2,853,890	
R6	210,910	204,540	236,850	208,530	188,890	200,860	220,040	228,400	198,490	207,810	234,880	235,050	2,568,260	
R7	200,620	218,060	206,610	181,860	229,710	252,580	236,430	251,540	192,290	175,460	217,590	231,410	2,596,100	

収支計画・実績	効率的・効果的な支出	適正な収支計画に基づき、安定した運営を行っているか	10	4(0.8)	8																																	
		市民サービスの向上に努めながら、効率的な予算執行を図っているか																																				
	適切な金銭管理・会計手続	適正な料金徴収を行い、遺漏のない金銭管理を行っているか	5	3(0.6)	3																																	
(評価の理由) 電気使用量については最大需要電力を抑制するために間隔において空調を稼働させたり、照明や空調を使用しない時間にこまめに切ったりするなど、細やかな節電に努めたことで、年間の電気量は前年度比11.3%、電気料金は前年度比12.3%減少させることができたことは評価に値する。 一方、水道使用量は5.2%の増加、水道料金は7.5%増加したが、これはコロナ禍以前の形で開催された高津区民祭によって多くのトイレ利用者があったことなどが影響しているものと思われる。 利用料金については、未収金を発生させず徴収事務を的確に執行した。																																						
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	市民に親しまれるふれあいと学習の場を提供しているか	20	4(0.8)	16																																	
		広報活動等、施設の利用促進に向けた取組がなされているか																																				
		地域団体や他施設と連携して地域及び施設の活性化に寄与する事業を展開しているか																																				
	郷土の理解を促進する取り組み	郷土の理解を促進する、魅力ある企画展を提供しているか	15	4(0.8)	12																																	
		常設展示について、来館者に訴求する展示となるよう工夫や改善がなされているか																																				
	利用者の意見・要望への対応	市民のニーズに即した文化事業を行っているか	15	4(0.8)	12																																	
		利用者の立場に立ったサービス提供を行い、利便性の向上に努めているか																																				
	(評価の理由) 歴史文化探究事業では、「高津・大山街道探究講座」や「高津のまち歩き講座」などを開催し好評を得ている。「大山街道歴史散歩」は4回から8回に回数を増やして開催し、学芸担当職員とNPO職員が講師を務め案内・解説を行った。その他にも、子ども向けのイベントを開催し「子ども大山街道探検クラブ」では延べ229名の参加、「ふるさと子ども出前授業」では小学校3校4件で延べ716名の参加があった。市民に親しまれるふれあいと学習の場の提供をすることができている。 博物館事業では、「常設展」、「企画展」を年7回、「ミニ企画展」を年9回開催した。常設展は、企画展の充実・増加に伴い、小規模での実施となった。企画展は開催回数を増やし7回の開催とした。日本遺産に認定されている大山詣りへの人々の根強い関心の高さや、NHKの紀行・教養バラエティ番組で大山や大山街道が取り上げられたことによる大山人気の背景やタイミングを捉え、企画展「岡本和泉 大山街道スケッチ紀行」や「大山詣りと人々の暮らし」を開催し多くの入場者数と高い満足度を獲得した。企画展の入場者総数は13,316名で市政100周年の昨年よりは475名ほど減少したものの高い水準になったのは評価できる。 秋・春のふるさと館まつりでは大山街道アクションフォーラム、大山街道サポーターズクラブと連携し、多くの来場者が訪れ盛況に実施することができた。その他にも「ぶらり散歩」や「まちのマイスター講座」など地域の商店街の協力を得て地域の活性化に貢献することができた。 7年度から学芸担当職員による展示解説を本格的に実施し、年10回合計146名の参加があり展示をより深く理解していただくことができた。																																					
	【参考】 ・展示室入場者数の推移																																					
	<table><tr><td></td><td>平成31年度</td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td><td>令和7年度</td></tr><tr><td>展示室利用(人数)</td><td>9,142</td><td>6,401</td><td>8,035</td><td>11,755</td><td>10,529</td><td>15,791</td><td>13,528</td></tr><tr><td>常設展(人数)</td><td>4,127</td><td>2,173</td><td>1,719</td><td>2,330</td><td>2,385</td><td>2,000</td><td>212</td></tr><tr><td>企画展(人数)</td><td>5,015</td><td>4,228</td><td>6,316</td><td>9,425</td><td>8,144</td><td>13,791</td><td>13,316</td></tr></table>							平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	展示室利用(人数)	9,142	6,401	8,035	11,755	10,529	15,791	13,528	常設展(人数)	4,127	2,173	1,719	2,330	2,385	2,000	212	企画展(人数)	5,015	4,228	6,316	9,425	8,144	13,791	13,316
		平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度																														
展示室利用(人数)	9,142	6,401	8,035	11,755	10,529	15,791	13,528																															
常設展(人数)	4,127	2,173	1,719	2,330	2,385	2,000	212																															
企画展(人数)	5,015	4,228	6,316	9,425	8,144	13,791	13,316																															
「ふるさと館ホームページ」については、委託している専門業者とも協力し、講座申込管理システムの制作に係る業務を中心に改善に取り組んだ。講座等の告知・申込受付・受講者名簿作成・当日管理までの全工程をWEB上で一貫して管理するシステムを構築し、職員の業務負担を削減しながら、受講者にとっても利便性の高い申込環境を目指して作業を進めた。様々な事業で申込フォームを活用し、電話による申し込みを併用したが、申込フォームからの応募が大半を占める講座等が多かった。 また、ふれあいネット操作が困難である高齢利用者へのサポートなどを充実させ、予約の困難さ緩和を図ると共に若い世代をターゲットにした新たな利用者の掘り起こしをアンケートや要望等をもとに取り組む姿勢がある。																																						
以上のとおり、地域で活躍する市民の協力、関係団体との連携、ホームページの移行などにより、地元地域に密着した事業を企画し広報機能を強化したことで、ふるさと館利用者総数が6万人を超えたことは、評価に値する。																																						
【参考】 ・ふるさと館HP閲覧者数の推移																																						
<table><tr><td></td><td>平成31年度</td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td><td>令和7年度</td></tr><tr><td>新規ユーザー数</td><td>13,224</td><td>12,430</td><td>15,712</td><td>17,861</td><td>15,850</td><td>17,945</td><td>19,957</td></tr><tr><td>セッション数(訪問者数)</td><td>21,764</td><td>20,839</td><td>25,680</td><td>27,072</td><td>24,669</td><td>27,935</td><td>32,019</td></tr></table>							平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	新規ユーザー数	13,224	12,430	15,712	17,861	15,850	17,945	19,957	セッション数(訪問者数)	21,764	20,839	25,680	27,072	24,669	27,935	32,019									
	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度																															
新規ユーザー数	13,224	12,430	15,712	17,861	15,850	17,945	19,957																															
セッション数(訪問者数)	21,764	20,839	25,680	27,072	24,669	27,935	32,019																															
・ふるさと館利用者総数の推移																																						
<table><tr><td></td><td>平成31年度</td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td><td>令和7年度</td></tr><tr><td>ふるさと館利用者総数 (入口カウンター数+屋外利用者数)</td><td>69,222</td><td>47,632</td><td>59,668</td><td>64,068</td><td>60,841</td><td>67,093</td><td>64,893</td></tr></table>							平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	ふるさと館利用者総数 (入口カウンター数+屋外利用者数)	69,222	47,632	59,668	64,068	60,841	67,093	64,893																	
	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度																															
ふるさと館利用者総数 (入口カウンター数+屋外利用者数)	69,222	47,632	59,668	64,068	60,841	67,093	64,893																															
組織管理	適正な人員配置	適切に職員を配置し、円滑なローテーションを行っているか	5	3(0.6)	3																																	
	担当者のスキルアップ	業務に関する研修を行い、職員の資質向上に努めているか	5	3(0.6)	3																																	
	安全・安心への取組	通常の安全管理や、緊急時を想定した計画・訓練などを行うとともに利用者のニーズの把握につとめ適切な対応を行っているか	5	3(0.6)	3																																	
	コンプライアンス	個人情報の保護や情報公開を適切に行っているか	5	3(0.6)	3																																	

体制	(評価の理由) 全ての利用時間帯において管理運営上の事務処理やふれあいネットを含む利用者への対応をきめ細かに実施した。 施設の安全管理においては1日4回及び必要に応じて館内巡回を行った。また非常時に職員全員が対応できるように、施設内の設備操作や緊急対応を想定した研修等も行った。また高津消防署の協力のもと、通報訓練、消火訓練等や避難誘導訓練、浸水対応の現地確認を行い、非常時の利用者及び職員の安全管理体制を整えている。 ふるさと館まつりに当たっては、避難誘導等に関するオペレーションをマニュアル化し、スタッフ全員で共有し危機管理意識を徹底している。				
	施設・設備の保守管理	施設利用の提供に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に行っているか	5	3(0.6)	3
業務実施	(評価の理由) 施設の老朽化に対応すべく、定期点検等を遺漏なく行い、施設点検表を用いた管理や各種修繕を実施するなど適切な施設管理がなされている。また、利用者の安全性確保や快適性維持のため、館入口部のチェーンポール補修工事やイベントホール空調交換工事を行った。さらに展示室改修工事を行い、各種展示物をより良い状態で展示することができ博物館としての機能を充実させた。				

4. その他加点

分類	項目	着眼点			評価点
その他加点	市の政策課題への取組				

5. 総合評価

評価点合計	72	評価ランク	B
-------	----	-------	---

※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準（評価点合計）
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。（80点以上）
B	総合評価の結果、優れていると認められる。（70点以上80点未満）
C	総合評価の結果、適正であると認められる。（60点以上70点未満） ※標準点
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。（50点以上60点未満）
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。（50点未満）

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

「まちの企画室」と事業連携及び「秋・春ふるさと館まつり」を実施した他、「第4回高津陶芸イベント」やぶらり散歩「二子散策と老舗料亭やよいでお茶とお菓子を」、また、マイスター講座を3回開催するなど地域の歴史や文化に根付いた事業を行っている。 企画展では「岡本和泉 大山街道スケッチ紀行」展、市民ミュージアムとの連携事業として開催した企画展「むかしのくらしー1950年代の日常ー」展、「大山詣りと人々のくらし」など郷土の理解を促進する取組として実施すると共に、学芸担当職員による企画展の展示解説を本格的に実施するなど来館者の興味関心を的確にとらえ多くの来場者を獲得している。 展示室壁面の工事を初めて行い、穴あきや変色などが改善され、様々な民族資料を美しく展示できるようになり、利用者から好評を得ている。 その他、貸館のキャンセル等の対応についても適切に行い、未収金を発生させることはなかった。更に支出や施設設備管理等についても、問題なく適切に行ったと認められる。

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

博物館事業については、企画展の開催回数を7回と増やして実施、また学芸員による展示解説（ギャラリートーク）を本格的に開始し、全10回延べ146人の参加を得るなど力を入れている。今後も専門性を活かした学芸業務の一層の充実を図り、人材育成や利用者ニーズの把握など、サービス向上に係る各種取組を継続し、様々な施設や関係機関との連携を考慮しながら企画展を開催するとともに、市民に学習の場を提供し市民の文化の発展に寄与し、館の存在感を高め来館者増につながる取組を検討されたい。 貸室業務については、利用料収入は前年度よりも27,840円増加したものの、貸室利用件数については39件の微減であった。これはイベントホールの利用が伸びたものの、利用者の高齢化による活動の不活性化やふれあいネットでの予約への苦手感によるものと分析している。高齢利用者へのサポートを充実させるなど対策を講じてはいるが、さらなる利用者の利便性向上に伴う新規利用者の獲得の実現に向けて継続して工夫と努力を行うこと。 利用料金の徴収については、現在の現金での支払いで未収金が発生していないことを踏まえ、利用料金徴収時に利用者からキャッシュレス導入についての要望はなく、導入コスト等との兼ね合いから非導入との判断をされているが、今後の動向を鑑み、より一層のサービス向上に努めること。 危機管理対応として作成したマニュアルを、職員間で定期的に共有し当事者意識を高めるとともに、区役所等で開催される訓練等に積極的に参加し緊急時においても臨機応変に対応できる体制づくりを継続されること。 開館から30年が経過し施設が老朽化しているため、日頃から施設点検を徹底し、必要な修繕や市への報告を速やかに行い、安全を確保すること。 これまでに構築した、地域住民や地域団体との良好な関係を維持するとともに協働して地域の活性化に貢献すること。 館内には貴重な資料が貯蔵されているため、これまで行ってきた取組を継続し、適切な保存状態を保つこと。 近年インバウンド需要の高まりに応えるため、広報活動を充実させ、市民はもとより外国人観光客などにも大山街道や高津区の振興に寄与できるようその魅力を余すことなく発信されるよう工夫と努力を行うこと。
